

「架け橋プログラム」は「できることからやってみる」が合言葉！

～第2回は架け橋プログラム（幼稚園の実践）についてお伝えします～



いわき市内の複数の幼稚園では既に、同じ地区にある保育所や小学校の先生方と顔を合わせ、架け橋プログラムの作成に向けた情報交換会や、相互施設の見学を行っています。子どもの「目指す姿」やお互いの思いを共有したり、それぞれの施設ならではの先生方の関わり方を理解したりする機会になっています。

【自園の活動に取り入れる】

こちらは幼稚園の先生が、園児たちに問い合わせながら、話し合いを進める姿です。小学校を見学して実際に見た「子どもたちの意見を引き出す」ことや「活動後に振り返りの時間をもつ」ことなどを活動に取り入れたそうです。他にも、お掃除の仕方なども、実際の活動を見て、園での指導に生かしているとのことです。



【環境の工夫で…】

水彩絵の具を使ってお絵かきをした園児たちが、筆やパレットを洗っているところです。動線や物の置き方の工夫で、一人一人が丁寧に洗い、水気を拭き取ることができていました。幼稚園や保育園の先生方は「環境作りの達人」です。園児たちが動きやすい、使いやすい、やってみたくなるような環境が園内のあちこちで見られます。小学校でもまねしあなぐるようなヒントがたくさんです。



いわき市内のほとんどの小学校は「入学してくる子どもたちの出身園がばらばらで連携しようにも…」と感じているのではないでしょうか。この「架け橋期プログラム」は、小学校区ごとの作成を推進しています。公立・私立、幼・保の区別なく、まずは近隣の園にコンタクトを取り、互いに見に行くことから始めてみてはいかがでしょう。